

新版 指導要文集

しんぱん

しどうようもんしゅう

だいにしょう

じっせん

第二章 実践

とき し

時を知る

しょうあんい

しゅしやよろ

え

いつこう

章安云わく「取捨宜しきを得て、一向にすべからず」

とう てんだい

とき かな

とううんぬん

等。天台云わく「時に適うのみ」等云々。

(005 開目抄

とき し

時を知る 119 ページ 17 行)

しょうあんい

しょうじゅ しやくぶく

てきせつ

もち

(章安大師のいわく)「(摂受と折伏は)適切にどちらを用い

す

はんだん

いちりつ

てんだい

どちらを捨てるかを判断して、一律にすべきではない」と。天台

だいし しょうじゅ しやくぶく

と

とき

大師は「(摂受と折伏のいずれを取るかは)時によるのみである」

といっています。

そ
夫れ、
ぶつぽう
仏法を学せん法は、
がく
ほう
かなら
必ずまず時をならうべし。
とき
習

009
せんじしやう
撰時抄

とき
時を知る
し
160
ページー7
行

ぶつぽう
しゆうがく
およそ仏法を修学するには、
かならずまず
とき
“時”
なら
を習うべきで

す。

か ほととぎす はる

にわとり あかつき

ちくしろう

彼の時鳥は春をおくり、鶏鳥は暁をまつ。畜生すら、

ぶっぼう しゅぎょう

なおかくのごとし。いかにいわんや、仏法を修行せんに

とき ただ

時を糾さざるべしや。

せんじしやう

(009 撰時抄

とき し

時を知る 160 ページ 11 行)

つぎ ごひやくねん

次の五百年には「我が法の中において鬭諍言訟して

びやくほうおんもつ

白法隠没せん」

(009 撰時抄

せんじしやう

時を知る 163 ページ 6 行

とき

し

ごくらくひやくねん しゆぎよう えど いちにち およ しょうぞう

極樂百年の修行は穢土の一日の功に及ばず。正像

にせんねん ぐつう まつぼう いちじ おと にちれん

二千年の弘通は末法の一時に劣るか。これひとえに、日蓮

ち 賢 とき はる

が智のかしこきにはあらず、時のしからしむるのみ。春は

はな 咲 あき このみ生 なつ 暖 ふゆ 冷

花さき、秋は菓なる。夏はあたたかに、冬はつめたし。

とき

時のしからしむるにあらずや。

ほうおんしょう

010 報恩抄

とき し

時を知る 261ページー12行

ごくらく 百年 あいだしゆぎよう えど いちにちしゆぎよう くだく

たとえ極樂で百年の間修行しても、穢土で一日修行した功德

およ しょうほう ぞうほうにせんねん あいだ ぶつぼう ぐつう まつぼう

には及びません。正法、像法二千年の間の仏法の弘通は、末法

いちじ　ぐつう　おと

にちれん　ちえ

の一時の弘通に劣るのです。このことは、ひとえに日蓮の智慧がすぐ

ひろ

じせつ

れているからというのではなく、弘めるべき時節がきたということ

はる

はな

さ

あき

このみ

なつ

あたた

ふゆ

つめ

す。春には花が咲き、秋には菓がなり、夏には暖かく、冬は冷

とき

ふせつ

たい、といったことも時の符節にかなっていることによるのではない

でしょうか。

ぶつぽう

かしこ

ひと

とき

き

仏法には賢げなるようなる人なれども、時により機によ

くに

せんご

ぐつう

わきま

しんしん

り国により先後の弘通によることを弁えざれば、身心を

くる

しゆぎよう

しるし

苦しめて修行すれども験なきことなり。

しもやまごししようそく

(013 下山御消息

時を知る 273 ページ 10 行

とき し
時を知らずして法を弘めば、
ほう ひろ
益無き上、
やくな うえ
還つて悪道に墮つ
かえ あくどう お
るなり。

028
きょうきじこくしやう
（教機時国抄）

とき し
時を知る
478 ページ 13 行
（

夫^それ、仏^{ぶつ}法^{ぽう}を学^{がく}する法^{ほう}には、必^{かな}ず時^{とき}を知^しるべきなり。

（091 上行菩薩結要付嘱口伝
じょうぎようぼさつけつちようふぞくぐでん

時^{とき}を知^しる 976
ページー14行

ぶつぽう がんぜん

仏法は眼前なれども、

広

ばひろまらざるごと、

とき したが

の時に随って増減し、

ぞうげん

じょうてん

つき

じょうげ

満

欠

上天の月の上下にみちかくるがご

とし。

き

機なければ顕れず、時いたらざれ

ほうに

どうり

れい

たいかい

しお

法爾の道理なり。例せば、大海の潮

105 新尼御前御返事

にいあまごぜんごへんじ

時を知る 1221 ページ 1 行

しょうほう

いちじいつく

じき

かな

かなら

とくどう

正法は、一字一句なれども、時機に叶いぬれば必ず得道

成

せんきようまんろん

しゅうがく

じき

そうい

なるべし。千経万論を習学すれども、時機に相違すれば

かな

叶うべからず。

さどごしよ

(122 佐渡御書

とき

し

時を知る 1286 ページ 5 行)

ただ

ぶつぼう

いちじいつく

とき

き

正しい仏法は一字一句であつても、時と機にかなつていれば、か

じようぶつ

ぎやく

きようてん

しよもつ

まな

ならず成仏できます。逆にいかにあらゆる經典・書物を学んだ

とき

き

そうい

じようぶつ

としても、時と機に相違していれば成仏はできません。

ちしや　もう

智者と申すは、かくのごとき時を知つて法華經を弘通する

だいいち　ひじ

が第一の秘事なり。

ほうれんしょう

(164 法蓮抄

とき　し

ほけきょう

ぐつう

時を知る

1427

ページー10行)

にちれん

卑

なんみようほうれんげきよう

とな

たま

日蓮をいやしみて南無妙法蓮華經と唱えさせ給わぬは、

しょうに

ちち

疑

嘗

びようにん

くすし

うたご

くすり

小児が乳をうたごうてなめず、病人が医師を疑うて薬

ふく

りゆうじゆ

てんじんとう

し

たま

を服せざるがごとし。竜樹・天親等はこれを知り給えど

とき

き

ぐつう

たま

よにん

知

も、時なく機なければ弘通し給わざるか。余人はまたしら

せんでん

ぶつぼう

とき

き

ひろ

ずして宣伝せざるか。仏法は時により機によりて弘まるこ

い

にちれん

とき

そうろう

となれば、云うにかいなき日蓮が、時にこそあたりて候

らめ。

166

曾谷入道殿御返事

(如是我聞の事)

そやにゆうどうどのごへんじ

によぜがもん

こと

とき

し

時を知る

1438

ページー10行)

いっさい
一切のことは時ときによることに候か。春は花、秋は月と申すことも時ときなり。

327 上野殿御返事うえのどのごへんじ（適時弘法の事ちやくじぐほう こと）

時ときを知るし 1896 ページ 6 行

にちれん
日蓮は、
いま
今、
とき
時を得たり。
え
あにこの所嘱の本門を弘めざらんや。

412
みょういちによごへんじ
妙一女御返事
じりじょうぶつしょう
(事理成仏抄)

とき
時を知る
し
2133
ページー12行